空き家バンク登録者

「人が住まなくなれば、家はすぐに傷んでしまう。　貸すのはお金のためじゃなく、愛着のある家のため」

大利 義房
Yoshihusa Oori
土佐山田町在住／登録物件：香北町梅久保

今年７月に空き家バンクへ登録。
所有者の義父が入院してからは、毎週のように訪れ、
家の管理をおこなってきた。

この家の所有者であった義父が７月に亡くなり、空き家の所有者になりました。母屋は昭和32年頃に建築されています。「自分の山から切り出してきた木を使って建てたんだ」と、義父は誇らしげでした。

私が、『空き家バンク』を知ったのは、喫茶店で年配の集まりをしていた時でした。年齢的にも空き家を所有する友達も多くなり、そういった話になったのでしょう。早速、市役所に行って話を聞いてみると、想像していたより簡単に登録でき、１カ月程で、香美市のホームページにも掲載されました。

家を貸したいと思ったのは、家は閉めたらすぐ傷んでしまうからです。義父の思い出がある家が傷んでしまうのは、やはり忍びないですからね。もう一つの理由として、庭や畑の管理があります。雑草が無造作に生えたりすると、イノシシが山から下りてきて、近所の皆さんにも迷惑がかかってしまいますので。

この家は、夏は涼しく冬は暖かく過ごすことができます。夏は扇風機ひとつで快適に過ごすことができ、冬でもストーブがあれば暖かく過ごすことができます。また、珍しいことに台所にはかまどがある（写真左上）ので、ぜひ、使っていただきたいです。

畑も充実しています。家庭菜園程度ですが、野菜・お茶・ふき・こんにゃく芋などが採れます。柑橘類の木を多く植えていて、ユズなど８種類ほどの柑橘類を採ることができます。

ここは静かで、空気がおいしく、景色が美しく、集落の方も良い人ばかりです。不便に思うかもしれませんが、車があれば美良布まではすぐです。車がなくても移動スーパーが来てくれますし、市バスもあります。

空き家の所有者の皆さん、考え方は人それぞれではありますが、『貸す』という選択肢も検討してみてはいかがでしょうか。

空き家バンク賃借者

「自分がどういう環境で人生を過ごしたいのか」

味田村 浩太
Kota Mitamura
東京都出身／教材翻訳

福森 知香
Chika Fukumori
高知市出身／主婦

今年５月に空き家バンクを通じて、香北町猪野々の貸家に入居。
海外での生活体験においても自然の豊かな場所に住居を構えてきた。

「水がきれいな場所を探しました」

猪野々にある空き家を借りた理由を尋ねると、お二人はそう答えてくれました。水のきれいな場所を探して、岡山や京都でも物件を探していたようです。また、猪野々に来るまでは、幡多に拠点を置き、自分たちで古民家をリノベーション（※）して住んでいたとのことでした。

香美市に来たもう一つの理由として、交通の便が良いことを挙げてくれました。「仕事柄県外に出ることがあるので、空港に近いのは魅力です」と味田村さん。Ｉターン移住の方にとって、交通の便は重要な要素のようです。

実際にここで生活して、思うことや考えることはありますかと尋ねると、「暮らし始めてみて感じるのは、家まわりの山の草刈りから田んぼの水の管理まで、人の手がかかっているということ。集落から人が減ってきている今、ここでの生活を続けていくのだとしたら、将来的にもっと人手が必要となるのは明らかです。食べものを育て土に触れて暮らしたい人たちが移って来られるよう、お手伝いをすることも、これから大切な役割になっていくと思います」と、話してくれました。

リノベーション担当は福森さん。「自分がどういう環境で人生を過ごしたいのかということを心に描き、この場所にたどり着きました。住み始めたときは、色々なアイデアがありましたが、いざ壁を剥がしてみると白アリにやられていて使えないなということも。ただ、毎日少しずつ家を作り直すのは楽しいです。まだまだ、改修前の解体中の状態ですけどね」と笑顔。

「ここに引っ越してきたとき、近所の人たちがすごく喜んでくれて、今も親身になって接してくれます。私たちも公民館での集まりをいつも楽しみにしています」と笑顔で取材に応じてくれました。

※既存の建物を修理・改修すること。